

公益財団法人 天文学振興財団
令和 6 年度事業報告
令和6年4月1日から令和7年3月31日まで

1. 研究支援事業の概要（公 1）

定款第 4 条で定めた公益目的事業の助成事業を展開しました。

令和 6 年度の助成事業は、[1]国際研究支援事業では、研究助成で 2 件の助成を実施し、国際研究集会参加・開催で新型コロナ禍後の活動再活性化により、16 件の助成を実施しました。[2]普及・啓発支援事業は例年並みの 15 件の助成を行いました。この結果、全体で約 650 万円を助成することができました。

[1] 国際研究支援事業

[1]-1 研究に対する助成

(単位：円)

公 募	申請件数	申請額	助成件数	助成額	不採択件数	備 考
第1回公募	2	1,943,260	1	300,000	1	
第2回公募	1	561,000	1	350,000	0	
第3回公募	0	0	0	0	0	
小計	3	2,504,260	2	650,000	1	

[1]-2 国際交流に対する助成

第1回公募	0	0	0	0	0	
第2回公募	0	0	0	0	0	
第3回公募	0	0	0	0	0	
小計	0	0	0	0	0	

[1]-3-1 国際研究集会参加に対する助成

第1回公募	10	2,762,834	7	1,290,518	2	採択後辞退 1 件
第2回公募	3	512,210	3	485,210	0	
第3回公募	2	725,879	2	698,775	0	
小計	15	4,000,923	12	2,474,503	2	採択後辞退 1 件

[1]-3-2 国際研究集会開催に対する助成

第1回公募	1	1,000,000	1	500,000	0	
第2回公募	2	1,475,600	2	700,000	0	
第3回公募	1	325,600	1	280,000	0	
小計	4	2,801,200	4	1,480,000	0	

合 計	22	9,306,383	18	4,604,503	3	当初予算額 合計350万円 採択後辞退 1 件
-----	----	-----------	----	-----------	---	----------------------------

[2]普及・啓発支援事業

(単位：円)

公 募	申請件数	申請額	助成件数	助成額	不採択件数	備 考
第1回公募	12	3,615,696	10	1,224,549	2	
天文学者へのオールヒストリーによる現代日本天文学史の基礎調査	1	918,000	1	300,000	0	
星と宇宙の体験プログラム	1	65,516	1	60,000	0	
オリジナル分光器による天体データ公開事業	1	368,280	1	300,000	0	
もしも君が杜の都で天文学者になったら2024	1	280,000	1	250,000	0	
気仙沼星空観望会	1	342,320	1	120,000	0	
「好奇心を共有する」YouTubeライブ配信による星空観察会	1	754,689	0	0	1	
スターヴィレッジアストロノミーキャンプ イン上北山村	1	639,042	0	0	1	
STAR WEEK 2024夏の星空観察会	1	57,600	1	57,600	0	スターウィーク2024
2024夏 星空案内in西宮ガーデンズ	1	38,487	1	38,487	0	同上
七夕星まつり・スターウィーク特別夜間観望会	1	100,000	1	60,000	0	同上
スター・ウィーク2024キャンペーン (実行委員会)	1	18,462	1	18,462	0	同上
星座額 夏の大きな三角形をつくってみよう	1	33,300	1	20,000	0	同上 助成件数5件 助成額計 194,549円
第2回公募	5	2,513,293	4	602,720	1	
一般市民向け観望会、大人向け講座	1	52,720	1	52,720	0	
第1回島原半島・星空観望会～島原城下で見る宇宙の姿～	1	300,000	1	250,000	0	
ダジック・アースを用いた天文出前授業2024	1	230,000	1	100,000	0	
「天文教育普及活動における一般の方に向けた効果的な表現方法を学ぶ」対面イベント	1	1,000,000	1	200,000	0	
太陽が地球環境に及ぼす影響	1	930,573	0	0	1	
第3回公募	1	46,300	1	46,300	0	
市民向け観望会、大人向け講座、講演	1	46,300	1	46,300	0	
合 計	18	6,175,289	15	1,873,569	3	当初予算額 350万円

[1] + [2] 国際研究支援事業並びに普及・啓発支援事業

(単位：円)

公 募	申請件数	申請額	助成件数	助成額	不採択件数	備 考
国際研究支援	22	9,306,383	18	4,604,503	3	当初予算額 350万円
普及・啓発支援	18	6,175,289	15	1,873,569	3	当初予算額 350万円
合 計	40	15,481,672	33	6,478,072	6	当初予算額 700万円

※採択後辞退 1 件

2. 令和6年度研究支援事業の詳細

[1] 国際研究支援事業

国際研究支援事業の助成は以下のとおり。

[1]－1 研究に対する助成

第1回公募（申請：2件、助成：2件）申請額計：1,943,260円【助成額計：300,000円】

第2回公募（申請：1件、助成：1件）申請額計：561,000円【助成額計：350,000円】

第3回公募（申請：0件、助成：0件）申請額計：0円【助成額計：0円】

申請：3件、助成：3件、不採択：0件 申請額総計：2,504,260円【助成額総計：650,000円】

[1]－1 第1回公募

① S氏（静岡大学 グローバル共創科学部 静岡大学大学院 総合科学技術研究科
理学専攻 物理学コース 准教授）

研究課題名：ngVLA/SKA時代に向けたOH分子輝線のアウトフロートレーサーとしての確立

研究概要：銀河内で起きる星形成とAGNによるフィードバック過程は、銀河そのものの星形成を（自己）制御し、最終的に銀河の進化を決定すると考えられている。特に、分子ガスアウトフローは、現代の宇宙論・銀河進化分野において根幹をなす研究対象の一つである。分子ガスアウトフローの観測には、主に一酸化炭素(CO)分子輝線が使われているが、分子ガスアウトフローでの光度-質量変換係数の不定性やCO存在量研究が不足しているのが現状である。トレーサーであるCO輝線そのものがボトルネックとなり、分子ガスアウトフローの観測的研究、特にアウトフローの銀河進化へのインパクトを定量化するために必要な分子ガス質量の正確な導出はごく少数の銀河のみに限られている。

そこで本研究では、2030年代に本格運用が始まるngVLA/SKAなど新世代の電波干渉計での分子ガスアウトフローの大規模な探査を見据え、(1)本助成により研究環境を構築し、(2)CO輝線の代わりにOH輝線をトレーサーとして確立することを目標とする。

成果概要：本研究は、2024年2月に採択された米国VLA望遠鏡でのOH輝線パイロット観測をベースとした計画であったが、残念ながら観測が実行されることはなかった。そのため、このパイロット観測のターゲットであった近傍渦巻銀河NGC253とNGC1068の分子ガスアウトフロー観測に関わる研究にシフトした。両銀河に対し、ALMA望遠鏡の大量の分子輝線データを用いることで分子ガスや星形成活動の特徴を詳細に捉えることに成功した。これは、今後OH輝線を用いてフィードバックの研究を進める際に有用な成果となることが期待される。（報告書原文）

助成額：1件 300,000円

[1] - 1 第2回公募

② T氏 (国立天文台(ALMA プロジェクト) 助教)

研究課題名：野辺山 45m 電波望遠鏡による Wolf-Rayet 星 WR140 周囲の星形成領域の様子と化学組成の調査

研究概要：本研究では、大質量星(10-20 $M_{\odot}$)の終焉期である Wolf-Rayet 星のうち、炭素が豊富な WC 型の WR140 について、野辺山 45m 電波望遠鏡を用いた観測により、その周囲で分子雲が形成され次世代の星形成活動が誘発されているかを調査し、またその分子雲の化学組成を導出することを目標とする。先行研究では、WR 星を有する 5 つの領域の CO のマッピング観測に基づき、WR 星からの恒星風が掃き集めた分子雲が成す分子雲シェル周囲において星形成が誘発されていることが示された。この分子雲シェルには WR 星から放出された有機物分子が直接的にもたらされていることが期待され、今までの星間化学では無視されていた、大型有機分子から小型の分子が形成される「トップダウン型メカニズム」による分子形成が進みうると期待される。

成果概要：本研究のターゲットである WR140 は、分子輝線を使った詳細な観測が行われていなかったため、まず CO (1-0) 輝線の観測によるマッピング観測を行った。Dame et al. (2001) の低空間分解能の CO の分布から、WR140 から南側に 9pc ほど離れた位置にクランプがあることがわかった。そこで、野辺山 45m 電波望遠鏡に搭載された FOREST 受信機を用いて、このクランプについて高空間分解能・高周波数分解能のマッピング観測を行った。CO, ^{13}CO , C18O の輝線のマップのデータが得られ、このクランプ内には複数の速度成分が混在していることがわかった。次に、このクランプが WR140 の直接の影響を受けているかを評価するため、WR140 からこのクランプまでの間を 20 等分し、0.016pc 毎にスペクトルを取得した。CO の輝線が WR140 から連続的に速度が繋がっていることを確認するためである。観測の結果、ターゲットとなるクランプは WR140 の影響を受けており、WR140 の星風が周囲の分子雲を掃き寄せ、密度の高いクランプを形成した可能性を見出した。さらに、より複雑な分子 (HCN, HNC, CCH, HC $_3$ N) の観測も行ったが、検出できなかった。野辺山 45m 電波望遠鏡のバックエンドの故障により、長期間使用できず、また Q バンドの観測に使用する予定だった extended Q-band (eQ) 受信機の立ち上げ観測が予定通りに進まなかったため、当初の予定を変更した観測を行った。Q バンドの観測については、この野辺山 45m 望遠鏡の CO のデータをもとに Yebes40m 望遠鏡に観測提案を提出し、A Rank で採択された。観測は現在実行中であり、データの取得を待っている段階である。WR 型星の電波望遠鏡による観測例は少なく、それらの化学組成に関する観測はほとんどない状況でありましたが、今回の助成金のおかげで次の観測に繋がるデー

タも得られました。今回の支援に心から感謝を申し上げます。（報告書原文）
助成額 : 1 件 350,000 円

[1]－2 国際交流に対する助成

第1回公募（申請：0 件、助成：0 件）申請額計： 0 円【助成額計： 0 円】
第2回公募（申請：0 件、助成：0 件）申請額計： 0 円【助成額計： 0 円】
第3回公募（申請：0 件、助成：0 件）申請額計： 0 円【助成額計： 0 円】
申請：0 件、助成：0 件、不採択：0 件 申請額総計： 0 円【助成額総計： 0 円】

[1]－3 国際研究集会参加および国際研究集会開催に対する助成

1. 国際研究集会参加に対する助成

第1回公募（申請：12 件、助成：6 件）申請額計： 2,762,834 円【助成額計： 1,290,518 円】
第2回公募（申請：3 件、助成：3 件）申請額計： 512,210 円【助成額計： 485,210 円】
第3回公募（申請：2 件、助成：2 件）申請額計： 725,879 円【助成額計： 698,775 円】
申請：15 件、助成：11 件、不採択：3 件、採択後辞退：1 件
申請額総計：4,000,923 円【助成額総計：2,474,503 円】

[1]－3-1 第1回公募

① H氏（国立天文台 天文シミュレーションプロジェクト 特任研究員）

研究集会名：The Trans-Neptunian Solar System 2024 Meeting (TNO 2024)

開催期間 : 2024/06/23～2024/06/28

開催場所 : 中華民国台湾 台北

参加国数 : 30 カ国 参加者数：100 名

成果概要 : 会議中、私は遠方の海王星太陽系天体の原始配列を提案した「セドノイドの原始軌道配列」に関する研究を発表しました。この発見は、太陽系外部形成の既存のモデルに疑問を投げかけます。この会議は貴重な議論とネットワーキングの機会を促進し、FOSSIL TNO コラボレーションへの参加への私への招待につながりました。（報告書原文）

助成額 : 1 件 100,000 円

② H氏（東京大学理学系研究科天文専攻 博士2年）

研究集会名：XXXII IAU General Assembly 2024

開催期間 : 2024/8/6～2024/8/15

開催場所 : 南アフリカ共和国 ケープタウン

参加国数 : 不明 参加者数 : 2,434 名

成果概要 : IAU 総会のセッション「Bridging the final stages of massive stars to supernovae and transients」にて、「The features of interaction-powered supernovae explored by binary population synthesis」という題で口頭発表を行いました。発表後の議論を通じて、論文投稿に向けての議論が肉付けされ、論文の最終的なまとめ方がまとまりました。(報告書原文)

助成額 : 1 件 100,000 円

③ I 氏 (東京大学理学系研究科物理学専攻 博士課程 2 年)

研究集会名 : Supernova Remnants III: An Odyssey in Space after Stellar death

開催期間 : 2024/6/9~2024/6/15

開催場所 : ギリシャ ハニア (クレタ島)

参加国数 : 23 カ国 参加者数 : 221 名

成果概要 : 本研究会では、世界各国の超新星残骸に関する主要な研究者等が一同に介し、超新星残骸の持つ多様な側面に関する講演や議論が行われた。私が行った議論の中では、特に P. Plucinsky 氏 (Harvard-Smithsonian Center for Astrophysics) との XRISM を用いた将来の解析やアメリカの次世代ミッションの一つである LEM について議論を交わし、帰国後に進めている研究の大きな一助となっている。また、F. Kirchschrager 氏 (Ghent University) との超新星残骸の進化過程や磁場強度とダスト破壊の関連に関する議論は、過去の研究で解消できなかった疑問が解決できたのと同時に、今後の研究の新たな方向性を生み出すきっかけとなった。(報告書原文)

助成額 : 1 件 208,170 円

④ W 氏 (福島大学 博士課程 2 年)

研究集会名 : 10th Galaxy Evolution Workshop

開催期間 : 2024/8/6~2024/8/9

開催場所 : 台湾 台北

参加国数 : 8 カ国 参加者数 : 83 名

成果概要 : 今回は ALMA 望遠鏡で観測した近傍銀河 NGC1068 の AGN 周辺の高密度分子ガスに着目し、銀河進化について議論を行った。その結果、AGN の周辺である CND 周辺で高密度ガストレーサである HCN/CO 強度比が渦巻銀河の典型値より 10 倍程高い値が検出された。これは HCN/CO 存在量比の異常が原因が考えられた。
(報告書原文)

助成額 : 1 件 135,068 円

⑤ M氏（東京大学理学系研究科天文学専攻 博士課程1年）

研究集会名：Hinode-17/IRIS-15/Sphere-3

開催期間：2024/7/23～2024/7/27

開催場所：アメリカ モンタナ州ボーズマン

参加国数：13 カ国 参加者数：167 名

成果概要：申請者は7月23日（火）から27日（土）にかけてアメリカ合衆国モンタナ州ボーズマンにて開催された国際研究集会「Hinode-17/IRIS-15/SPHERE-3」に参加し、「ひので」衛星のデータを用いた太陽リム近傍のスペクトル線の形状とそのドップラー速度に関するポスター発表を行った。多くの研究者と議論を交わし、その中で今後の展望として考えていた数値シミュレーションによる観測の再現に関して新たな着想を得た。さらに、論文としてまとめる際に言及する点を整理することができた。（報告書原文）

助成額：1 件 347,280 円

⑥ T氏（オーストラリア国立大学 天文学・天体物理学研究学校 ストロムロ山天文台
Postdoctoral Fellow）

研究集会名：European Astronomical Society Annual Meeting (EAS) International
Astronomical Union General Assembly (IAU GA)

開催期間：2024/7/1～2024/7/5、2024/8/6～2024/8/15

開催場所：イタリア（パドバ）、南アフリカ（ケープタウン）

参加国数：107 カ国 参加者数：2,648 名

成果概要：ヨーロッパ天文学会年会と国際天文学会総会で、計6本の口頭発表（2本のポスター口頭発表を含む）を行った。発表は主に昨年発表された2本の論文と現在進行中の研究に関するものである。一つ目の発表は、ALMA 望遠鏡観測によって明らかにされた最遠方の渦状腕/棒状構造とその円盤ダイナミクスを詳細に調べ、シミュレーション研究と合わせて銀河の棒状構造のガスの剪断流から星の棒状構造を直接形成する新たな形成パラダイムを示している可能性を議論した(Tsukui+24, MNRAS)。二つ目の発表は、ALMA 望遠鏡を用いたダストの温度分布導出により、ブラックホールと母銀河の星形成の放射エネルギーを空間的およびエネルギー的に分離する手法を提案した(Tsukui+23, MNRAS)。この方法はより正確な星形成率の推定を可能にし、近年の JWST 望遠鏡による赤外域での母銀河とブラックホールからの放射の分離、銀河星質量、ブラックホール質量導出研究と合わせて銀河とブラックホールの形成成長を解き明かすために相補的な手法であることを強調した。三つ目の発表は、現在進行中の JWST を用いた宇宙史全体にわたる銀河円盤形成に焦点を当てた最新の成果を発表した。多くの研究者と議論することができ、特に現在進行中の研究について議論の進展や新たな

共同研究が生まれた。(報告書原文)

助成額 : 1 件 400,000 円

[1] - 3-1 第2回公募

⑦ Y氏 (名古屋大学 博士前期課程二年)

研究集会名 : 25th East Asia Sub-millimeter-wave Receiver Technology Workshop

開催期間 : 2024/12/12~2024/12/13

開催場所 : 大韓民国 大田

参加国数 : 4 カ国 参加者数 : 57 名

成果概要 : 平面集積型回路マルチプレクサの成果を世界に向けて発信する事、他国の研究者との意見の共有を目的として本研究会に参加した。口頭発表を通して、特にミリ波帯の CPW 型 BPF に興味持っていただけた。さらに、伝送損失という観点で解析をする必要があることを助言して頂けた。また、他国の平面集積型回路に関する研究内容を聞くことで我々の研究にも応用できる技術があることを知ることが出来た。(報告書原文)

助成額 : 1 件 76,750 円

⑧ M氏 (東北大学 特任研究員)

研究集会名 : AAPPs-DPP2024

開催期間 : 2024/11/3~2024/11/8

開催場所 : マレーシア マラッカ

参加国数 : 34 カ国 参加者数 : 472 名

成果概要 : AAPPs-DPP2024 の宇宙プラズマセッションに招待され、The Impact of Stellar Feedback on Formation of Young Massive Clusters via Fast HI Gas というテーマで招待講演を行いました。磁気流体力学を用いた大質量星団形成をプラズマ理論に携わる多くの研究者が参加する本会議で講演できたことは、本研究の理解を深めると同時に、新たな応用を考える上でも有意義な経験になりました。

(報告書原文)

助成額 : 1 件 170,000 円

⑨ S氏 (東京大学理学系研究科天文学専攻 修士2年)

研究集会名 : 2024 'The Ecosystem of Gas and Dust in Galaxies Near and Far' Meeting

開催期間 : 2024/12/10~2024/12/15

開催場所 : タイ チェンマイ

参加国数 : 8 カ国 参加者数 : 92 名

成果概要 : 「No Galaxy-Scale [CII] Outflow in the z=6.72 Red Quasar Revisited by

ALMA」という題で口頭発表を行なった。レッドキューサーセレクトションの際の色超過の正当性、[CII]輝線からアウトフローの存在を議論する際の連続波の差し引き重要性についての質問をいただき、本セレクトションによる銀河進化プロセスの位置付けの再考の必要性、連続波の差し引きの問題が依然として残っている現状について詳細な議論を交わした。(報告書原文)

助成額 : 1 件 238,460 円

[1] - 3-3 第3回公募

⑩ K氏 (東京大学理学系研究科/宇宙線研究所 修士1年)

研究集会名 : Escape of Lyman radiation from galactic labyrinths

開催期間 : 2025/4/8-2025/4/11

開催場所 : ギリシャ (コリンバリ(クレタ島))

参加国数 : 17 カ国 参加者数 : 87 名

成果概要 : 本研究会では、銀河が出すライマンアルファ輝線や連続光の放射と銀河からの脱出のメカニズム、宇宙再電離との関係について議論が行われた。私は遠方銀河のライマンアルファ輝線観測による宇宙再電離史の推定について口頭発表を行った。研究会を通して多くの参加者と議論を行い、我々の観測結果の理論的解釈や研究の将来計画を考えることができた。(報告書原文)

助成額 : 1 件 328,775 円

⑪ O氏 (NRC Herzberg Astronomy and Astrophysics

理化学研究所 坂井星惑星研究室

日本学術振興会 海外特別研究員)

研究集会名 : Protostellar accretion and ejection with JWST and beyond

開催期間 : 2025/5/19~2025/5/23

開催場所 : オランダ ライデン

参加国数 : 9 カ国 参加者数 : 48 名

成果概要 : 本ワークショップでは、近年のジェイムズ・ウェッブ宇宙望遠鏡 (James Webb Space Telescope)により明らかとなった噴出ガス (アウトフロー) の全貌、強い衝撃波領域 (ジェット)、温度構造、アウトフローとともにエンベロープガスにおける化学構造などを踏まえ、JWST を初めとする最先端の観測機器を用いて、将来の星形成研究をどのように進めていくかについて話し合った。参加者は、これまでの観測・理論結果をそれぞれのエキスパートによる Review talk を通して整理し、いくつかのテーマについてグループに分かれた議論を行った。私は自分の興味に基づき、主にアウトフローに関するグループ議論に参加した。そこでは理論研究のアイデアや今後の観測アプローチの方向性などを取り入れると同時に、自

分の意見や疑問を投じた。最終日には若手研究者を代表してアウトフローに関する Review talk を行った。私の研究内容、近年の観測成果を示し、5 日間のワークショップを通じて明確になった今後のアウトフロー観測研究の方針を示した。5 日間多くの議論時間が設けられた本ワークショップは非常に有意義なものとなった。(報告書原文)

助成額 : 1 件 370,000 円

2. 国際研究集会開催に対する助成

第 1 回公募 (申請 : 1 件、助成 1 件) 申請額計 : 1,000,000 円 【助成額計 : 500,000 円】

第 2 回公募 (申請 : 2 件、助成 2 件) 申請額計 : 1,475,600 円 【助成額計 : 700,000 円】

第 3 回公募 (申請 : 1 件、助成 1 件) 申請額計 : 325,600 円 【助成額計 : 280,000 円】

申請 : 4 件、助成 : 4 件、不採択 : 0 件 申請額総計 : 2,801,200 円 【助成額総計 : 1,480,000 円】

[1]-3-2 第 1 回公募

① I 氏 (広島大学宇宙科学センター 助教)

研究集会名 : Evolution of Dust and Gas throughout Cosmic Time

開催期間 : 2024/12/9 ~ 2024/12/13

開催場所 : 広島県広島市

参加国数 : 21 カ国 参加者数 : 137 名

成果概要 : 本国際会議では、37 件の口頭講演および 68 件のポスター発表があった。先端的な研究を実施している若手研究者による発表が多数あり、バランスが良い構成となった。発表は銀河ガスとダストに関わる多岐な内容にわたり、近傍と遠方銀河の研究者や観測者と理論家が集まり、星間物質に着目し横断的な論議をすることができ、また、NASA 遠赤外線宇宙望遠鏡計画 PRIMA への期待も大きいことが伝わってきた。ポスター発表の形式を工夫したおかげで、ポスター発表も非常に盛り上がった。本会議では DEI (Diversity, Equity & Inclusion) を重視し、その実現のために、発表者の選抜時には匿名化、若手研究者への優先的な旅費補助、また無償の託児室を設置した。銀河ガス・ダストの分野における、国内外、若手とシニア、観測者と理論家による人材・研究交流ができ、有意義な国際研究集会となった。(報告書原文)

助成額 : 1 件 500,000 円

[1]-3-2 第 2 回公募

② S 氏 (山口大学大学院創成科学研究科理学系情報科学分野 助教)

研究集会名 : 長波長電波解析講習 2025

開催期間 : 2025/2/17～2025/2/18

開催場所 : 国立天文台三鷹キャンパス (東京都三鷹市)

参加国数 : 3 カ国 参加者数 : 17 名

成果概要 : 令和 7 年 2 月 17 日、18 日に国立天文台三鷹にて長波長電波解析講習会 2025 を開催した。本講習会では MHz 帯の電波を観測する干渉計 GMRT と LOFAR に焦点を当て、講師に Huib T. Intema 氏と Shane P. O'Sullivan 氏を迎え、低周波電波観測の基本から、解析に必要なツールの使用方法まで講習が行われた。参加者は学部 1 年生からスタッフまで幅広く、また電波観測データの解析経験にも差があった。しかし参加者を少人数に制限していたため、講師・世話人サポートを分担することで、各参加者レベルに合わせた目標が達成された。

(報告書原文)

助成額 : 1 件 400,000 円

③ N 氏 (東京大学 特任研究員)

研究集会名 : Nucleosynthesis and Evolution of Neutron stars

開催期間 : 2025 年 1 月 27 日～2025 年 1 月 30 日

開催場所 : 京都府 京都大学

参加国数 : 13 カ国 参加者数 : 89 名

成果概要 : 本国際研究会では、中性子星の「進化」を主題に、理論と観測、宇宙と原子核というミクロとマクロの物理の接点を探った。特に、中性子星観測の進展や状態方程式の理論に関する最新の成果発表があり、現状の理解を整理する好機となった。さらに、中性子星の熱進化、連星系での進化 (X 線バーストや合体)、宇宙の元素合成への波及についても活発な議論が行われた。今後は、天体観測と地上実験の連携に加え、それを支える理論的理解の深化が一層重要になることが再確認された。 (報告書原文)

助成額 : 1 件 300,000 円

[1]-3-2 第3回公募

④ F 氏 (東京大学 講師)

研究集会名 : Young Transiting Planet Workshop 2025

開催期間 : 2025/3/12～2025/3/14

開催場所 : 沖縄県石垣市

参加国数 : 5 カ国 参加者数 : 27 名

成果概要 : 近年急速に研究が進展している「若いトランジット系外惑星」に焦点を当てた国際ワークショップを開催した。国内開催の小規模なワークショップであったが、参加者のうち約 4 割は海外もしくは外国籍をもつ国内の研究者・学生であ

り、国際色の強いワークショップとなった。ゆとりのあるスケジュールを組むことで、新たな研究アイデアに繋がるような活発な議論を促すことができた。また、期間中にエクスカッションやバンケットを開催し、参加者同士の交流を深めることができた。（報告書原文）

助成額 : 1 件 280,000 円

[2] 普及・啓発支援事業

普及・啓発支援事業の助成は以下のとおり。

第1回公募（スターウィーク協力イベント以外 申請：7件、助成：5件）

申請額計：3,367,847 円 【助成額計：1,030,000 円】

（スター・ウィーク協力イベント 申請：5件、助成：5件）

申請額計：247,849 円 【助成額計：194,549 円】

第2回公募（申請：5件、助成：4件）申請額計：2,513,293 円【助成額計：602,720 円】

第3回公募（申請：1件、助成：1件）申請額計：46,300 円【助成額計：46,300 円】

【年度計】申請：18件、助成：15件、不採択3件

【年度計】申請額総計：6,175,289 円【助成額総計：1,873,569 円】

[1] 第1回公募

① 事業名 : 「天文学者へのオーラルヒストリーによる現代日本天文学史の基礎調査」

申請責任者 : T氏（熊本大学大学院先端科学研究部 教授）

実施期間 : 2024年7月～2025年3月

成果報告 : 前年度に引き続き、池内了氏、佐藤勝彦氏、佐藤文隆氏、田原博人氏、日江井榮二郎氏にインタビューを行い、日本の天文学の発展の経過や天文学をめぐる状況の変化などについて伺った。また新たに鶴田幸子氏、松岡勝氏のインタビューを開始した。天文月報では2025年4月より日江井榮二郎氏のインタビュー記事の連載を開始する。（報告書原文）

助成額 : 1 件 300,000 円

② 事業名 : 星と宇宙の体験プログラム

申請責任者 : 市民活動団体 Zinnia I氏

実施日 : 2024/8/12-13、2024/9/14

実施場所 : 北神戸田園スポーツ公園（8月メイン球場、9月サブ球場B）

参加者数 : 8月26組(87名)、9月35組(107名)

開催報告 : 8月は晴天に恵まれ、参加者全員が1個以上の流れ星を観察することができ

ました。9月はあいにくの曇天でしたが、月が見える時間があったため月を中心に天体観望を行いました。観望会では、NASA データを元にしたコペルニクススクレーター模型を触りながら、望遠鏡で観測するなど視覚と触覚同時にアプローチするなど工夫しました。（報告書原文）

助成額 : 1 件 60,000 円

③ 事業名 : オリジナル分光器による天体データ公開事業

申請責任者 : 鳥取市さじアストロパーク主任兼学芸員 M氏

実施日 : 2024/8/1～2025/3/31

実施場所 : 鳥取市さじアストロパーク

参加者数 : 7 名

開催報告 : ・鳥取市さじアストロパーク制作のオリジナルプラネタリウム番組において、当事業で撮影した分光データを使用し分光観測の科学的意義を紹介した。
・当事業を推進するため、分光器を製作した米子工業高等専門学校科学部による観測合宿をおこない、分光器の操作実習および観測データの取得をおこなった。
・当事業で使用した分光器を製作した米子工業高等専門学校科学部および国内外の公開天文台が活用できるよう、撮影データを HP で公開した。
(以上、全て報告書原文)

助成額 : 1件 300,000円

④ 事業名 : もしも君が杜の都で天文学者になったら2024

申請責任者 : 「もし天2024」実行委員会 H氏（東北大学大学院理学研究科 准教授）

実施日 : 2024/12/22～28

実施場所 : 東北大学理学部・仙台市天文台（日本・宮城県仙台市）

参加者数 : 12 名

開催報告 : 募集定員12名に対して、九州から札幌まで全国48名の応募があった。作文審査で選ばれた熊本、福岡、岡山、大阪、石川、山梨、神奈川、東京、福島、北海道の12名の高校生・高専生などが受講した。今年は、初めて高校に所属しない高校就学相当の生徒を受け入れた。4名1組の3つの班に分かれて、受講生自ら研究課題を立案し、観測計画を建てて仙台市天文台の口径1.3mの”ひとみ”望遠鏡で観測を行った。最終日の研究成果発表会には10名弱の一般聴講参加者があり、同時配信を行ったYoutubeには35名の視聴があった。今年も受講生、指導にあたった学生達が天文漬けの1週間を存分に満喫した。（報告書原文）

助成額 : 1 件 250,000 円

⑤ 事業名 : 第4回気仙沼星空観望会

申請責任者 : N氏 (インター宇宙ポレーション 東北大学大学院理学研究科 学生)

実施日 : 2025/3/1

実施場所 : 宮城県気仙沼市小泉公民館

参加者数 : 170名

開催報告 : 第4回気仙沼星空観望会は、気仙沼市小泉公民館において開催され、前回を超える来場者を迎える大盛況のうちに実施されました。当日は曇りがちの天候にもかかわらず、多くの参加者が惑星観察を楽しむとともに、JAXA/ISASの峰松拓毅様をお招きしたトークショー、ミニプラネタリウム作り、火星でまちづくりワークショップなど、多彩なプログラムにご参加いただきました。前回・前々回からのリピーターの方々のみならず、周辺地域の皆さまにも幅広くご関心をお寄せいただき、地域全体で星空の魅力を再確認する貴重な機会となりました。(報告書原文)

助成額 : 1件 120,000円

○スター・ウィーク2024 協力イベントに対する助成 ⑥～⑩ 計 5件

助成額計 : 194,549円

全体主催 : スター・ウィーク実行委員会

開催時期 : 令和6(2024)年7月～8月

協力イベント :

⑥ 事業名 : STAR WEEK 2024 夏の星空観察会

主催者 : 山中温泉ゆけむり倶楽部

開催日 : 2024/8/1

開催場所 : 石川県 仮住まい住宅

参加者数 : 200名

開催報告 : (元日に発生した令和6年能登半島地震のため)1980年の山中児童センター・プラネタリウム創立以来44年続いた天文関連事業も、一時は中止の瀬戸際に立たされましたが、貴団体始め関係者の努力で継続の運びとなりました。今回はスタッフも含め200人近くの参加者でにぎわいました。また、活動の中心的役割を果たしたのが児童センター天文教室OB・OGたちでした。その天文教室も8月1日に仮住まいの一室で再開することができました。天文教室と観察会の様子は2度にわたり広報で特集しました。コロナ禍の後震災という難局を乗り越え、天文普及事業が一層継続発展へと進む機運になりました。(報告書原文)

助成額 : 1件 57,600円

⑦ 事業名：2024 夏 星空案内 in 西宮ガーデンズ

主催者：星のソムリエ@西宮

開催日：2024/8/17

開催場所：阪急西宮ガーデンズ本館 4F（西宮町高松町 14-2）

参加者数：約 450 名

開催報告：・開催約 1 か月前から、スター・ウィーク 2024 の協カイベントである旨を弊団体の WE B サイトに掲載し、「スター・ウィーク」の文言周知も図るとともに、プラネタリウム投影プログラム時、案内用スライドにてスター・ウィーク紹介を行えた。

- ・夏に無料で天体望遠鏡が覗ける観望会ということで、地域のミニコミ誌にイベント開催予告情報が掲載された。事前申込は、観望会（定員@60 人 X3 回=180 人）は全回が満員、プラネタリウム投影会（定員@40 人 X6 回=240 人）も 4 回分は満員の状況であったが、当日含め、定数のキャンセルは否めなく、実参加者は、観望会とプラネタリウムで約 350 人にとどまった。
- ・当日は夕方にかけて、天候が回復していき、天体望遠鏡を 台設置し、月やベガ、アンタレス、アルビレオ、アークトゥルスなど夏の星座の星を中心に星空案内人の説明を聞きながら、生の天体の姿を観察するなど観望体験をしてもらうことができた。
- ・小型の屈折望遠鏡と自導導入経緯台に小型の CMOS カメラを接続し、撮影画像を大型スクリーンに投映するテレビ観望は、春に続き 2 回目であったが、散光星雲、惑星状星雲、球状星団など、街なかの明るい夜空のもとでは視認しづらい天体を導入・投映でき、天体の解説に加え、テレビ観望の特徴などわかりやすく説明した（参加者は自由観覧方式で、2 回実施で約 100 人）。
- ・神戸大学天文研究会の皆さんによるプラネタリウム投影は、ストーリー仕立ての完全オリジナルの番組（子ども向け・一般向け・今日の星空各 2 番組ずつ）であり、薄暗い空間で物語の世界にいざなって星空体験の機会となった。

（報告書原文）

助成額：1 件 38,487 円

⑧ 事業名：七夕星まつり・スターウィーク特別夜間観望会

主催者：尾鷲市立天文科学館

開催日：2024/7/26、2024/8/1～8/8

開催場所：尾鷲市立天文科学館

参加者数：197 人（七夕星まつり 105 名、観望会 92 名）

開催報告：尾鷲市立天文科学館では、小・中・高校生に星や宇宙に興味をもってもらい、子育て世帯に星の美しさを知っていただく機会として、開館（平成 2 年

度)以降、同イベントを約30年実施しております。

「七夕星まつり」は、社会教育施設において「学び」の要求を取り入れたイベントです。スタンプラリー方式による、星に関するゲーム等を通じ、楽しみながら天文の知識を習得することができ、また本助成金を活用して購入した景品は、自宅に戻ってご家族と共にイベントについての話題をしながら、星や宇宙について学ぶことができるような商品を中心に選んでおります。今年度は、ポスター掲示や学校へのチラシ配布などを行い、昨年度の1.5倍の参加者(105名)の参加がありました。

一方、「スター・ウィーク特別夜間観望会」は、スター・ウィーク中にあわせて星や宇宙に興味をもってもらい、天文科学館の存在を再認識していただくイベントで、天候の関係上2日(8/1、8/3)のみの開催となりました。参加者は計92名。市のイベントにあわせて天文科学館から花火(港まつり)を鑑賞したり、本年度は市制70周年であることから今年70年振りに接近した「ポン・ブルック彗星」の写真を来館者へ配布するなど、天体への関心を高める取り組みを行いました。

次年度以降は、夏休みの自由研究も見据えた観望会等の実施も検討しており、今後もスター・ウィークを盛り上げていきたいと考えております。

(報告書原文)

助成額 : 1件 60,000円

⑨ 事業名 : スター・ウィーク 2024 キャンペーン

主催者 : スター・ウィーク実行委員会

開催期間 : 2024年1月～11/5 (スター・ウィークは8/1～8/7)

開催場所 : 全国

開催報告 : 1月から、2024年のスター・ウィークキャンペーンにおけるキャッチコピーの公募を実施した。1月15日から2月29日の募集期間中、応募は535件であった。実行委員会並びに協力者による選考を経て、4月にキャッチコピーを「だって星が綺麗(きれい)だから」(埼玉県・原さん考案)に決定した。

キャッチコピーは毎年恒例ではあるものの、公募をすることで世間の関心を高め、また一般的な公募用のメディア・サイトに掲載することで、スター・ウィークキャンペーンの一般層への認知度を高める効果をもたらしている。

6月には各天文施設にて広報するためのポスターとポストカードを制作した。これらは、まず協力団体の一つである日本公開天文台協会(JAPOS)が7月1日から3日に開催した第18回全国大会(東京大会)にて、参加した各施設・個人会員へ配布を行った(参加は約60団体・約100名)。

また7月には、各組織のメーリングリストやウェブページにて配布希望団体を

募り、応募のあった各団体・施設に向けて郵送・配布を実施した（約50通）。ポスターは、各施設にて掲示され、スター・ウィークキャンペーンの広報に活用された。またポストカードは、各施設における広報用として、また各施設におけるイベント開催時の参加賞等として活用され、好評を得た。

施設・団体向け以外では、SNSでのプレゼントキャンペーンを実施。ポスターとポストカードをセットにして、5名にプレゼントした。

キャンペーン期間中の8月1日から7日を中心に、キャンペーンイベントの一環として「今、星をみています・今、天文台にいます」というネット上の掲示板を展開した。なお掲示板では、報告の画像を多数投稿していただくよう、またセキュリティを高く設定できるよう、有料の掲示板（ロケットBBS）を利用している。

今年は、キャンペーン期間の前後を含めて、およそ150件の書き込みがあり、スター・ウィークキャンペーンの「ひとりでも多くの人に星空に親しんでもらう」という理念のもと、星空を見上げるという各人による体験記を共有できたと考えている。また各天文施設からの報告、各種イベント参加者からの報告、個人の星見体験からの投稿、さらに事務局からの返信などが相まって、スター・ウィーク全体のコミュニティーツールの一つとしての役割を果たした。

11月5日にスター・ウィーク実行委員会を開催。各種報告を実施した。また、実行委員会への助成金について、その使用の報告と適正度について確認を実施した。（報告書原文）

助成額 : 1 件 18,462円

⑩ 事業名：星座額 夏の大三角形をつくってみよう

主催者 : クラフト工房ローダンセ

開催日 : 2024/8/10

開催場所：鳥取市さじアストロパーク

参加者数：8名

開催報告：鳥取市さじアストロパークの夏休み工作コーナーとして「星座額 夏の大三角形をつくってみよう」を開催しました。

HP等でPRをしていただいたのですが、お盆前だったことや日中の猛暑で参加者が想像していたより少なかったです。

参加者の小さなお子さんたちには「キラキラができた」と喜んでいただきました。

保護者の方も「ベガはおりひめさまだねえ」と一緒に楽しんでくださいました。夜の開催のほうが星空も見えていただけるので良かったかもしれません

（報告書原文）

助成額 : 1 件 20,000円

[2] 第2回公募

- ⑪ 事業名 : ①天体観察会「土星、木星、月を見よう」、②『子ども～大人まで楽しめる天文教室』惑星を学ぼう、③天体観察会「火星、木星、土星、金星を見よう」、
④「天文学宇宙講演」銀河の個性を決めるのは生まれか育ちか、
⑤『宇宙のおはなしと望遠鏡講座』直星と変光星を学ぼう

申請責任者 : M氏 (関西で星を学ぶ会 代表)

開催日 : ①2024/11/16 (雨天中止)、②2024/12/21、③2025/1/18、④2025/2/9、
⑤ 2025/2/24

開催場所 : ①大阪市住吉区 浅香中央公園、②大阪市住吉区 荻田土地改良記念会館、
③ 大阪市住吉区 浅香中央公園、④大阪市立難波市民学習センター、
④ 大阪市立総合生涯学習センター

参加者数 : ①雨天中止、②受講者11名、講師1名、補助スタッフ2名 (合計14名)、③一般参加者約100名、スタッフ7名、④受講者21名、講師1名、補助スタッフ3名 (合計25名)、⑤受講者9名、講師1名、補助スタッフ2名 (合計12名)

開催報告 : (11/16) 当日は朝から曇り。天気予報でも夜は雨の予報だったので午前8時に中止を決定しました。

(12/21) 「惑星を学ぼう」と題して講座を開催した。惑星を学ぶ前に基礎知識を復習するために「天体観察」として星の日周運動、年周運動、太陽の動きの黄道を説明した。本題の【惑星を学ぼう!】では、太陽系の惑星を(地球からの位置の分類、内惑星と外惑星)と(地質学上の分類、岩石惑星、ガス惑星、氷惑星)を紹介した。後半には天文ソフト「ミタカ」で太陽系の惑星を訪問して「ステラリウム」でガリレオガリレイの木星のスケッチを再現して、過去の星空を存分に楽しめる内容でした。

(1/18) 当日は火星、木星、土星、金星が見える日でした。天候は「晴れ時々曇り」。晴れている時間が長く、星を見るのに適していた。寒いのか?初めは人が少なかったが途中から人が多くなり、後半は英語とは異なる外国の言葉(フランス語、中国語)の会話が飛び交いにぎやかでした。惑星以外には散開星団のすばる、1等星のベテルギウス、シリウスに二重星を天体望遠鏡で見て終了となりました。参加者の皆さんに満足していただけたと思います。

(2/9) 「銀河の個性を決めるのは生まれか育ちか」と題して「天文学宇宙講演」を開催した。関西では国立天文台の研究者による「すばる望遠鏡」の

観測結果の講演が少ない。国立天文台「ハワイ観測所」と東京大学「宇宙線研究室」の研究者だった利川さんの豊富なすばる望遠の観測結果のデータを披露していただき、観測者として、研究者として貴重なお話を聴くことができました。

(2/24)『二重星と変光星を学ぼう』と題して学習した。たんに“美しい二重星と変光星”を天体望遠鏡で観望するだけではなく、現代の天文学において二重星と変光星を学習することは、最新の宇宙の解明と科学の研究を広めるためにも重要であると理解できたこと。ブラックホールの発見、中性子連星の発見、重力波など未知の新天体の発見は二重星、宇宙の距離測定は変光星の研究が役立って今日に至ります。新惑星の発見の可能性などのお話まで発展した内容となりました。

(以上、全て報告書原文)

助成額 : 1件 52,720円

⑫ 事業名 : 第1回島原半島・星空観望会～島原城下で見る宇宙の姿～

申請責任者 : 島原半島ほしぞら観望会実行委員会 東京大学 理学系研究科 天文学専攻 M氏

開催日 : 2025/2/22

開催場所 : 島原高等学校、島原文化会館、島原城

参加者数 : 300名、スタッフ50名 程度

実施報告 : 一般の参加者やスタッフを含め、300名以上が参加する事業となった。長崎県島原半島では、過去10年ほど「星空観望会」を含む天文・宇宙に関する事業がほとんど開催されておらず、本事業は天文・宇宙への関心を広める良いきっかけとなった。スタッフには高校生や大学生のほか、地域の学校関係者や九州で活動するベテラン案内人も多数参加し、さまざまなつながりを築くことができた。今回得られたノウハウや人的ネットワークを活用し、今後も継続的に活動を展開していく予定である。(報告書原文)

助成額 : 1件 250,000円

⑬ 事業名 : ダジック・アースを用いた天文出前授業2024

申請責任者 : NPO法人科学技術振興のための教育改革支援計画 H氏

開催日 : 2024/11/1 ～2025/3/30

開催場所 : 東京都 国分寺市, 小平市, 中野区, 立川市

参加者数 : 約380名

開催報告 : 本事業は、ダジック・アースを活用して天文学や地球科学に親しむ機会を一般市民に提供し、特に生徒児童のサイエンスリテラシーの向上を目指しました。2024

年11月から2025年3月の間、主に東京都内の5カ所で天文イベントを開催し、延べ380名が参加しました。参加者と主催者から「知的好奇心がくすぐられた」や「子供たちの目がキラキラしていた」と高い満足度が得られ、継続希望も寄せられました。（報告書原文）

助成額 : 1 件 100,000 円

- ⑭ 事業名 : 大学生・大学院生を対象とした「天文教育普及活動における一般の方に向けた効果的な表現方法を学ぶ」ための対面イベント

申請責任者 : 一般社団法人 日本天文教育普及研究会 若手天文教育普及ワーキンググループ K氏

開催日 : ①2024/3/4、②2024/3/6、③2024/3/24

開催場所 : ①福島県高柳竜設工業スペースパーク（郡山市ふれあい科学館）（3/4）
②オンライン（3/6）、③徳島県阿南市科学センター（3/24）

参加者数 : ①9名、②10名、③7名

開催報告 : 天文教育普及活動における一般に向けた効果的な表現法を学ぶ対面イベントを、福島県の郡山市ふれあい科学館と徳島県の阿南市科学センターの2地点で開催した。現場に則した知識とスキルを獲得するために、福島会場では天文関連の質問にシチュエーション別で適切な解答表現を考えるワークを行なった。徳島会では参加者自らがグループごとに模擬イベントを企画し、実演を行なった。加えて交流会などを通して、若手同士のコミュニティ構築を行なった。
（報告書原文）

助成額 : 1 件 200,000 円

[3] 第3回公募

- ⑮ 事業名 : ①天体観察会『木星、火星、月を見よう』、②子ども～大人まで楽しめる天文教室『望遠鏡、肉眼で見える星を学ぼう』、③天体観察会『火星、月、春の星を見よう』

申請責任者 : M氏（関西で星を学ぶ会 代表）

開催日 : ①2025/3/15、② 2025/4/19、③2025/5/10

開催場所 : ①大阪市立荻田南小学校、②大阪市住吉区 荻田土地改良記念会館、③大阪
市立荻田南小学校

参加者数 : ①65名（1班35名、2班30名）、スタッフ9名、②受講者22名、講師1名、スタッフ3名、③一般参加者90名、スタッフ6名

実施報告 : （3/15）『木星、火星、月を見よう』と題して開催した。残念ながら当日の天候は雨。激しい雨となり、荻田南小学校で初回の天体観察会は講堂

(体育館)で雨天プログラムを開催した。雨にも関わらず、65名のお客さんの参加がありました。「雨天用木星を見よう、土星を見よう」と「反射望遠鏡の内部を覗くこと、赤道儀の極軸望遠鏡を覗くこと」をおこないました。また、子供向けに「天体望遠鏡の操作体験」をおこないました。

(4/19)「望遠鏡、肉眼で見える星を学ぼう」と題して開催した。【肉眼で見える星を学ぼう】では、小学校、中学校の理科の天文分野の復習をおこなった。【天体望遠鏡で見る星を学ぼう】では、天体望遠鏡で見る代表的な星を紹介した。【望遠鏡、肉眼で見える星を学ぼう】は、夕方に見える一番星は？恒星はなぜ天体望遠鏡で見ると点にしか見えないのか？恒星の色の違いなど、星を見る不思議な世界について学習した。【天体望遠鏡で星を見る】は、木星を天体望遠鏡で見て終了した。

(5/10)当日は「暴り時々晴れ」のため、星は天体望遠鏡で見えたが薄い雲がつねにあったので、雲を通して少し暗い状態で星を見た。会場となった荏田南小学校の運動場で、初めて天体望遠鏡を設置して星を見たので周りのタワーマンションや小学校の校舎が邪魔となって木星が見えないと思っていたが、実際には幸運に建物の間にうまく入って低空ギリギリまで木星が見えました。天体望遠鏡で火星、月、ふたご座のカストルを見て終了した。小学校の外で草刈りをしている人が天体望遠鏡を持っておるそうで、以外な出会いもありました。

(以上、全て報告書原文)

助成額 : 1件 46,300円

3. 研究業績等の表彰事業の概要（公2）

令和2年度から新たに開始した公的目的事業の研究業績等の表彰事業につき、5年度目の事業活動を実施しました。

令和6年度は、[1]古在由秀賞は4件の応募があり、[2]吉田庄一郎記念・ニコン天文学業績賞は3件の応募がありました。そして、選考委員会での選考・理事会の審議を経て、それぞれ以下の受賞者に決定しました。

[1] 古在由秀賞

受賞者：F氏（東京大学大学院理学系研究科、准教授）

受賞題目：新しいシミュレーション手法の開発とそれを用いた星団・銀河の力学的進化の研究

[2] 吉田庄一郎記念・ニコン天文学業績賞

受賞者：S氏（東京大学大学院理学系研究科附属天文学教育研究センター、准教授）

受賞題目：木曾広視野動画観測システム Tomo-e Gozen の開発と天文用 CMOS センサーの普及
(Development of Tomo-e Gozen, Wide-field VideoObservation System at Kiso Observatory, and Promoting CMOS Sensors to the Astronomical Community)

4. その他の事業

① 賛助会員企業向け国立天文台 三鷹キャンパス特別見学会の開催

令和6年10月13日（日）国立天文台三鷹キャンパスにおいて、15:00～19:00 まで最新天文学レクチャー、4D2Uドームシアター上映、天体観望会（50 cm公開用望遠鏡）、天文台施設公開（音声ガイドを利用した自由見学）を開催いたしました。例年、夏に開催してきた特別見学会ですが、今年は4D2Uシアター機材改修があったためにこの時期の開催となりました。3連休の2日目の開催でどうかと懸念しましたが、昨年を上回る63名に参加頂きました。最新天文レクチャーは双方向の自由な雰囲気を進めて頂き、たいへん好評でした。また、天候に恵まれ、観望会も皆さんとても満足頂けた様子でした。

イベント	15:00 ～ 15:50	16:00 ～ 16:50	16:00 ～ 16:50	17:00 ～ 17:45	17:50 ～ 18:40	18:00 ～ 19:00
最新天文学 レクチャー (すばる棟・大セミナー室)			○		○	
4D2U 上映 (4D2Uドームシアター)	1 回目 ○	2 回目 ○		3 回目 ○		
国立天文台 施設公開	音声ガイドを利用した自由見学					
天体観望会 (50 cm公開用 望遠鏡)						○

【最新天文学レクチャー】

- ・「考古天文学について」

講師：S氏（自然科学研究機構・特任教授、当財団 執行理事）

- ・「太陽系探査と系外惑星について」

講師：H氏（カブリ数物連携宇宙研究機構・特任教授、当財団 理事）

② 賛助会員企業への出張講演会

賛助会員企業からの出張講演会開催希望がなかったため、令和年6年度は開催なし。

以上